

## 伊勢湾台風記録写真

写真は愛知県公文書館で開催中の収蔵資料展「伊勢湾台風記録写真―復興にたずさわった人々のすがた」チラシ。一昭和 34(1959)年 9 月 26 日、愛知県に未曾有の大災害をもたらした伊勢湾台風。愛知県公文書館では、災害当時、愛知県海部事務所が撮影した記録写真のネガフィルムを資料として保存しています。県内でも被害の大きかった海部地域を中心に撮影された 2034 点の写真には、被災地や避難所の様子、そこで復興に携わった人々のすがたが記録されています。本展示では、これらの写真の一部をパネルにして展示します。また、閲覧室では、すべての写真をデジタル画像でご覧いただくことができます。

次の写真 2 枚は中日新聞 7 月 19 日朝刊 1 面など。「愛知、三重を中心に死者・行方不明者 5 千人強を出した災害の爪痕、避難住民の素顔などが、約 58 年ぶりによみがえる。公開されるのは、襲来翌日の 59 年 9 月 27 日から年末にか

け、愛知県津島市や弥富町(現弥富市)、飛島村、蟹江町、一宮市などで撮影された 2034 枚。県や市町村の職員が記録用に撮影したとされ、ほぼ全てが未公開とみられる。長年、津島市内の県施設に保管されていた。堤防が決壊し、大量の海水が流れ込んだ様子、ドラム缶による仮堤防の築造工事。ヘリで内陸部に移送されるお年寄りや、避難所で炊き出しを食べたり、雑魚寝したりする親子…。合同葬や野外で犠牲者を焼葬したシーンもある。

愛知県公文書館は資料検索・収集によく利用する。「写真展」が始まった 7 月 20 日、いつもは閑散とした公文書館には大勢の人たちが詰めかけた。テレビ局の取材もあり、地元の関係者らしい人にインタビューしていた。

写真の一部はパネル展示してあるが、大半はデジタル画像であり、スクリーンに順次映し出されていた。資料収集の合間に何回も見たが、伊勢湾台風の生々しい爪痕、避難住民と復旧に携わる人たちの様子が心に残った。公文書館にはお年寄りや親子連れ、夏休みには多くの子どもたちも訪れていた。災害の記憶をきちんと継承し、「災害文化」を育てていくうえで貴重な記録写真の資料展だ。9 月 12 日まで開催されているので、ぜひ一度。来月 9 月 26 日は、伊勢湾台風から 58 年。またレポートしたい。

(2017 年 8 月 26 日)

